

湯田地区コミュニティ運営協議会

★活動の概要

高齢者や子どもの交流・福祉・環境美化等に関する事業を進めていくとともに、地元の歴史や産業を再認識し、併せて世代間交流を図りました。

★交付金額

8, 430, 431 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	12, 560人
世帯数	6, 253 世帯
地域の キャッチフレーズ	優しく、美しい、誰もが、 安心するまちづくり

※数値は、平成26年3月31日現在のもの

■ 湯田セフティネットワーク・パトロール

内閣総理大臣表彰

毎月第2・4金曜日の午後9時から湯田の繁華街をパトロールしています。地域の安全確保のため、長年にわたる活動が犯罪のないまちづくりに貢献したとして、内閣総理大臣表彰を受けました。



安倍総理から表彰状を受け取る渡邊会長



繁華街のパトロール

■ 七卿落ちウォーク

二年目を迎えた七卿落ち講座ですが、今年は前回好評でした松前了嗣さんの解説付きで屋外にて開催しました。湯田温泉街周辺での七卿の当時の暮らしぶりを歩いて学習しました。地元の歴史に関心をもってもらうことができました。



井上公園にて説明を聞く参加者



幕末の雰囲気味わっています～龍泉寺

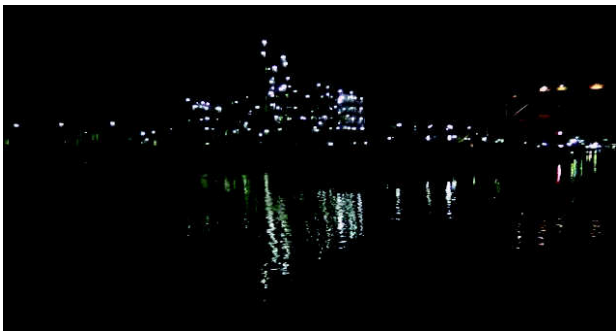
■ 歴史や産業を学ぶ交流研修

周南コンビナート夜景ツアー

地域の子どもたちとの地域間、及び世代間交流を併せた事業として、平成25年度から産業ツアーを実施しました。普段見られない、施設や県内産業をそれぞれの世代でともに勉強でき、交流ができました。

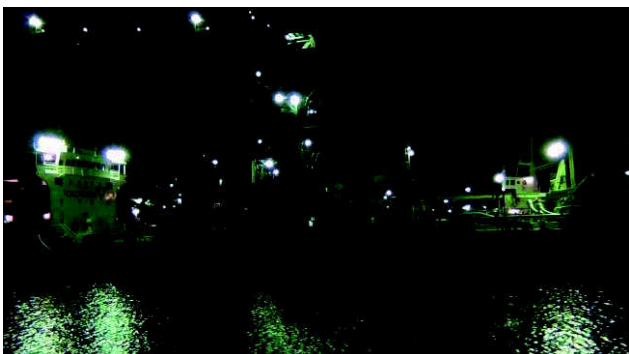


船内2階デッキで周南市の産業や歴史を説明する矢野(ガイド)さん
参加者も熱心に聞き入っています＝蛇島付近



(上)櫛東ソー工場群の夜景

(下)セメント積み出し船＝櫛トクヤマ敷地横



■ 熊野公園里山づくり

熊野神社境内にある権現山の一部を里山公園として地域住民の憩いの場とするため、整備や管理を開始しました。



桜と梅の苗木を植えました



最後は皆で記念撮影

今後に向けて

平成25年度も引き続き「七卿落ちウォーク」と称した屋外での講座を展開しました。先の明治維新150周年を控える中、今後ますます「湯田の歴史発掘」に関連する事業を展開していきたいと思います。また、今年度より始めた産業観光ツアーは地域の人達の関心を呼んでいます。地域の子どもたちの居場所づくり及び世代間交流ができるような事業をすすめていきたいと考えています。

吉敷地区地域づくり協議会

★活動の概要

平成24年度から取り組んでいる「地域づくり5ヵ年計画」を一層円滑に実行するため、平成25年5月に協議会体制を再編しました。特に地区内活動団体との連携の基礎固めと、課題の洗い出しからその解決方法についての検討、地区に広まっていく仕組みと定着に重点を置いて活動した結果、着実に地域内のコミュニケーションの機会が増えています。

★交付金額

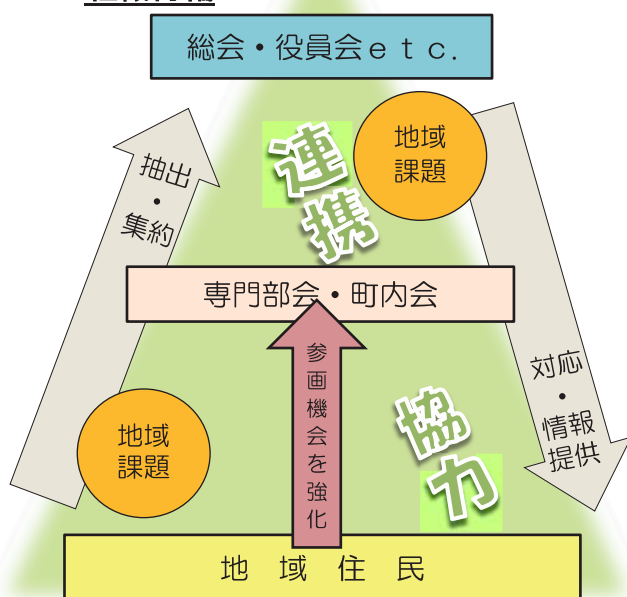
10,840,908 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	14,874人
世帯数	6,266 世帯
地域の キャッチフレーズ	笑顔あふれる ふれあいのまち

※数値は、平成26年3月31日現在のもの

■ 組織再編



宅地造成や人口流入によるコミュニティ希薄を抱える吉敷地区において、地域住民が専門部会に参画する機会を増やすことで地域課題への対応の一步を踏み出しました。

まず、新しく生まれ変わった地域づくり協議会の体制強化のため、専門部会を細分化し、地域住民の声を一人でも多く集め、「自分たちの地域は自分たちでつくる」意識の共有を目指しました。また、地域内で長年活動をしている団体との連携が強まるように、既存団体のマッチングや共同イベントを促しました。専門部会の話し合い、活動の中から自主的な活動団体も生まれようとしており、目に見える成果が活動の励みとなっています。

■ 既存団体のマッチング

人権学習推進大会の開催



ふれあい部会の文化部が新しく立ち上がったことで、文化部と地域活動団体の吉敷地区人権学習推進協議会が連携協力し、幅広い視点から人権学習推進事業を企画実施しました。特に、2月の人権学習推進大会では、講演会の講師に車いすマラソンランナーの田中秀夫氏をお招きするとともに、小中学生による絵や作文を募集・発表するなど小中学生からお年寄りまでが一堂に会する大会となりました。



■ 地域活動団体との共同イベント開催

親子でかんたん幼児食づくり

子育て支援事業では、若いお母さんたちの居場所づくりや交流機会の提供などの事業を継続して実施していますが、今年度は、「山口市地域型つどいの広場設置助成事業」のつどいの広場「楽楽楽(ららら)」スタッフと市の母子保健推進員、食生活改善推進委員が協働し、親子でかんたん幼児食づくり教室を開催することができました。

未就園児をお持ちのたくさんの親子が和やかな雰囲気の中、幼児食づくりを楽しまれていました。

このように、地域内活動団体が協働して互いの活動を知ることにより、さらなる交流を図っています。



もみじ学級食育指導

留守家庭児童が通う「もみじ学級」で、食生活改善推進委員の皆さんと児童と一緒にスイートポテトとりんごのパフェをワイワイ楽しく作りました。

推進委員さんから食事の大切さを指導された子どもたちは、毎日忙しくしているお父さんお母さんに思いを寄せ、改めて感謝の気持ちが芽生えたようです。

おいしいものを食べたときの「あふれる笑顔」は地域のキャッチフレーズそのものでした。

子どもたちにとっては、この吉敷地域が「ふるさと」です。

今後も地域一丸となって子育て支援を継続していきたいと思います。



■ 専門部会による新規事業紹介

組織再編による専門部会の強化によって、各部会では、身近な地域課題を洗い出し、その課題に向き合い、一年を通じて精力的に活動をしてきました。

その中から、環境部会の提案によって、東鳳翩(ほうべん)山の登山道整備事業、オオキンケイギク除去のための実証事業に取り組んだ事例を紹介します。

登山道整備

日本百名山のひとつである東鳳翩山や大内氏ゆかりの凌雲寺跡に繋がる登山道は、吉敷の重要な文化資源かつ観光資源と言えます。この地域資源を将来にわたり保全していく先導的な取組みのひとつとして、登山道に休憩所や案内看板を設置し、中長期的視点で地区内外の登山者への「お・も・て・な・し」に取り組めます。



案内看板と休憩用の石製ベンチ

特定外来生物除去のための実証事業

ここ数年、吉敷地区でも急激に繁殖しているオオキンケイギクは、きれいな黄色い花ですが、環境省が指定する特定外来生物であり、生態系への影響が懸念されている植物です。

このことを踏まえ、オオキンケイギクの除去の啓発と今後の取り組みを検証することを目的に、吉敷地区の中央を流れる吉敷川に架かる蛍見橋周辺で、花が咲く前のオオキンケイギクの除去作業を実施しました。



←オオキンケイギク
(環境省HPより)

平川コミュニティ推進協議会

★活動の概要

住民同士のつながりや交流を大切に、自分たちが考え、安心して暮らせる平川を目指して活動しました。

★交付金額

12, 693, 314 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	19, 164人
世帯数	10, 173 世帯
地域の キャッチフレーズ	つながる笑顔

※数値は、平成26年3月31日現在のもの

■ 自主防災組織づくり

8月に平川自主防災委員会と平川自主防災本部を立ち上げました。

自主防災委員会は、近隣の自治会が集まり平川を9つの防災会に分けて、それぞれに委員長や担当役員を置きました。また、自治連合会会長や社会福祉協議会会長等を理事とし、理事会を構成しました。

自主防災本部は、住民の団体関係者や有志17名で構成し、自主防災委員会との連携を図りました。また、自主防災本部員と9つの防災会会長の連絡調整会議も置き、連携して自主防災が行えるような組織づくりを図りました。

11月に山口市防災実動訓練が行われ、自主防災本部として山口市と連携して担架や車椅子を使った避難訓練等を行いました。



今後は、単位自治会が独立して自主防災組織を立ち上げていけるような支援と、より地域全体が共助できる体制を整えていきます。



地域と小学生のふれあい花壇



三世代交流グラウンドゴルフ



本物と触れ合う会

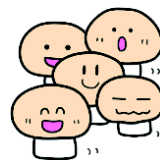
■ 平川まちづくりビジョン作成



住民自らが作るまちづくりビジョンを目指しています。平成24年度に行った住民ワークショップで出されたキーワードを参考にして住民アンケートを作成。公募で集まった35名の住民が分野ごとにグループに分かれてアンケート内容を検討し、グループ長会議や全体での検討会、講習会を行って作り上げました。

印刷や製本も作成委員の有志で行いました。

進めていくうちに発言や発想も活発になり連帯感やまちづくりへの意識も高まってきました。



本物と触れ合う会



■ つながるあいさつ運動

子どもたちの安全や地域の防犯対策のために見守り活動を展開しています。教育・健全育成部会が中心となり、各部会や団体に呼びかけ、連携して見守り活動を進めました。

また、あいさつ運動に加え、自治会から通学路や登下校時間の分かる地図を提出してもらうなど情報提供と意識の向上も図りました。

教育健全育成部会は学校とも連携し、会議には学校長、幼稚園長、さらに山口大学の学生サークルも出席し、意見交換や連携を行なっています。今後は下校時の安全を見守るため、さらに多くの



住民に呼びかけ、広報し、巻き込んでいきたいと考えています。

<今後に向けての地域の思い、取組みなど>

団体間の連携や地域住民の交流を大切にした事業を展開していきます。

また、住民自らが考えて取り組める環境づくりや意識づけができるよう、情報発信や情報共有を図ります。



大歳自治振興会

★活動の概要

「第2次大歳地区地域づくり計画」を策定するとともに、“自分たちのまちは自分たちで守る”意識の醸成を図り、安心安全な地域づくりとして、「おおとし見守り隊」の結成や、「自主防災組織連絡協議会」設立を進めました。

★交付金額

10,676,000 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	13,246人
世帯数	6,065 世帯
地域の キャッチフレーズ	みんなでつくろう明るく 住みよい おおとしを

※数値は、平成26年3月31日現在のもの

■ 自治会の活性化

地域のふれあい促進を目的に1自治会1事業として取組の促進を図り、今年度は12自治会、900人以上の参加がありました。その他にも、「三世代交流夏休みラジオ体操」の推進や「大歳地区一斉清掃」等を実施し、多面的に地域のふれあい促進を図る取組を展開しました。

下矢原自治会：風づくり



富田原自治会：
竹細工・そうめん流し



■ 子どもの生活安全対策

地域の子どもの生活安全対策として、約40人で構成する「おおとし見守り隊」を組織しました。活動は、大歳小学校児童との対面式を経て、登下校時の立哨を中心にスタートしました。今後は、隊員募集を継続的に行い、組織を拡大し、立哨に限らず「地域生活の見守り」をも行いたいと考えています。

大歳小学校児童との対面式



下校時の見守り活動



■ 地域の災害安全対策

今年も防災委員研修会を実施し、各自治会での自主防災組織設立に向けた支援を行いました。その結果、新たに6自治会で組織化され、地域内の自主防災組織も合計で16となりました。そうした中、7月の豪雨では、大きな被害を受け、改めて地域内での連携が不可欠との意識が高まり、「自主防災組織連絡協議会」を設立することとなりました。今後も、「自分たちのまちは、自分たちで守る。」という防災意識の向上に向けた支援を行います。



大歳防災の日：講演会



自治会自主防災資材：購入支援

■ 地区行事の推進活動

8月のおおとし夏まつり、11月の大歳まつりの2回、地区のまつりを開催しました。大歳まつりでは、新企画としてミニSLを走らせ、あいにくの雨天でしたが、子ども達に盛況でした。今後も地域のふれあいを促進し、世代間の交流が活発化するような仕掛けに努めていくこととしています。



おおとし夏まつり：浴衣でおいでませ！



大歳まつり：SLがやってくる！

※ 今後に向けての地域の思い、取組みなど
平成25年12月に第2次大歳地区地域づくり計画を策定しました。この中で、中心となる事業は「あいさつ運動の推進」、「おおとし見守り隊」による見守り活動の充実等で、これらを積極的に推進し、「地域の活力」、「コミュニティ力」の再生を促進していきたいと考えています。